

事業名称	地域と世界をつなぐ～阿波の手工芸を核とした文化交流の提案 ver. 4		
実行委員会	いんべの里地域活性化実行委員会		
中核館	一般財団法人 阿波和紙伝統産業会館		
	住所	〒779-3401 徳島県吉野川市山川町川東 141	
	TEL	0883 (42) 6120	FAX 0883 (42) 6085
	ホームページ	<a href="http://www.awagami.or.jp/hall/index.html">http://www.awagami.or.jp/hall/index.html</a>	
構成団体	中核館、吉野川市、吉野川市商工会、吉野川市国際交流協会、吉野川市文化協会		
事業開始時点の課題分析	<p>平成30年度に策定した5カ年計画「地域と世界をつなぐ～阿波の手工芸を核とした文化交流の提案～」に基づき、過去3年間、各種事業を実施した。中核館（阿波和紙伝統産業会館）が有する阿波手漉和紙の技術や歴史に、徳島県を代表する農産物・工芸のひとつである阿波藍と、令和大嘗祭の折、地元吉野川市より献上された荒妙（あらたえ/麻布）織りの技術を結びつけることで、点在する地域の「宝」を線にすべく活動している。昨年よりコロナ禍の影響により、国内外からのイベント参加者の流入が例年より減少し、海外や県外人を参加者として含めたイベント中止を余儀なくされた。しかし、本県は感染者数が少ないこともあり、感染防止対策を行い、地域住民や近郊の参加者の理解を得ることで、規模を縮小しながらもイベントを実施することができた。</p> <p>また、リモートワークによる東京との講演会や伝統的工芸品全国大会の産地紹介、アーティストインレジデンス事業で中国とフランスのアーティストとの交流を開催することができたことは、リモートワークを活用した今後の創造活動に幅を持たせる可能性をみいだせた。</p>		
事業目的	<p>本事業では、和紙の原料である楮が先人達によってどのように生活の中に使われていたのかに着目した。古来、楮や大麻の繊維から糸を作り、太布織りや機織りの文化があった。和紙から紙糸を作り、織り布や紙の製造を盛んに行なっていたとの記録が古語拾遺（807年）に残っていることから、中核館を中心に地域文化の採掘と活性化を地域の皆様を交えて行う。</p> <p>また、地域に埋もれている偉人や文物を整理して、地方の文化を一堂に公開することで、点であった文化施設が線となって面となり、観光客による流入人口の増加につながる。</p> <p>本事業を推進することで中核館を中心とした文化と産業の発展的な好循環を目指すことが重要であると考え、本プログラムを組んだ。</p>		
事業概要	<p>【親和性の高い3つの工芸（和紙・藍染・古代織）をコラボレーションさせる5カ年計画】令和3年度「藍×古代織、自然の回廊」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に生かされている和紙を中心にして、藍染や生活に関わる織り文化と地域住民との関係を先人たちの教えの中から見直し、次の世代に伝承する</li> </ul> <p>(1) 阿波和紙の技術継承／啓蒙活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外を対象にした地域住民、一般参加者に対する和紙作り、染め織り等の伝統工芸のワークショップを開催</li> <li>・地域住民、一般参加者に対する講演会を開催</li> </ul> <p>(2) 和紙と染め織り／様々な素材を用いて染め織りを楽しむ、学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民、一般参加者に対する藍の植栽、藍染、紙布、麻織物のワークショップを開催</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果発表による展覧会や専門家による講演会を開催</li> <li>(3) 自然に生かされ、地域に生かされ</li> <li>・ 高越山の豊富な植物、地質、神社仏閣、伝説などの発見活動、フィールドワークや専門家による講演会を開催</li> <li>・ 地域に伝わる歴史や文化財を多言語化発信</li> </ul>
<p>実施項目</p> <p>・</p> <p>実施体系</p>	<p>(1) 阿波手漉き和紙の技術継承／啓蒙活動</p> <p>①地域住民、一般参加者に対するワークショップ (ワークショップ)</p> <p>②国内外を対象にした和紙作り、染め織り等の伝統工芸紹介 (研修会)</p> <p>③地域住民、一般参加者に対する講演会 (講演会)</p> <p>(2) 和紙と染め織り／様々な素材を用いて染め織りを楽しむ、学ぶ</p> <p>①地域住民、一般参加者に対するワークショップ (ワークショップ)</p> <p>②地域住民、一般参加者に対する展覧会 (展覧会)</p> <p>③地域住民、一般参加者に対する講演会 (講演会)</p> <p>(3) 自然に生かされ、地域に生かされ</p> <p>①地域住民、一般参加者に対するフィールドワーク (フィールドワーク)</p> <p>②地域住民、一般参加者に対する講演会 (講演会)</p> <p>③地域に伝わる歴史や文化財を多言語化発信 (多言語化)</p>
<p>実施後の</p> <p>成果・効果等</p>	<p>(1) 阿波和紙の技術継承／啓蒙活動</p> <p>芽かきワークショップ 対象：一般参加者のべ5人</p> <p>楮刈り取りワークショップ 対象：一般参加者のべ26人</p> <p>手漉き和紙研修会 対象：一般参加者3人</p> <p>講演会(ミニプリントアーティストトーク) 対象：一般参加者51人</p> <p>講演会(民藝の思想と染織りやデザイン工芸のイノベーション) 対象：一般参加者32人</p> <p>和紙のフォトパネルを作ろうワークショップ 対象：一般参加者7人</p> <p>(2) 和紙と染め織り／様々な素材を用いて染め織りを楽しむ、学ぶ</p> <p>紙布教室 対象：一般参加者のべ37人</p> <p>藍を育てる 対象：一般参加者のべ14人</p> <p>寄り合い作品展 対象：一般参加者のべ53人</p> <p>藍染作品展 対象：一般参加者のべ190人</p> <p>紙布教室展 対象：一般参加者のべ133人見込み</p> <p>紙布教室展ギャラリートーク 対象：一般参加者27人</p> <p>(3) 自然に生かされ、地域に生かされ</p> <p>フィールドワーク(高越山縦走) 対象：一般参加者3人</p> <p>フィールドワーク(ふるさとウォーク) 対象：一般参加者17人</p> <p>講演会(高越山系の多彩な植物) 対象：一般参加者31人</p> <p>講演会(冬の高越山フィールドワーク報告会) 対象：一般参加者16人</p> <p>阿波和紙みどころマップ(地域の史跡等と多言語化観光マップ)作成、配布 1000部</p>

## 【事業実績】地域と世界をつなぐ～阿波手工芸を核とした文化交流の提案 ver.4～

親和性の高い3つの工芸(和紙・藍染・古代織)をコラボレーションする5カ年計画の4年度となる本年は、自然に生かされている和紙を中心にして、藍染や生活に関わる織文化と地域住民との関係を先人たちの教えの中から見直し、次世代に伝承する事業として、藍と織りをクローズアップした展覧会や講演会、ワークショップを行なった。

### (1) 阿波手漉き和紙の技術継承／啓蒙活動

①地域住民、一般参加者に対するワークショップ

芽かきワークショップ(7/3、7/17) 対象:一般参加者のべ5人 楮の傷を防ぎ、直線的に成長させる為、芽かきをした 画像1

(<https://youtu.be/aDZvV68ETk0>)

楮刈り取りワークショップ(12/11、12/12、1/15、1/16) 対象:一般参加者のべ26人 成長した楮を刈り、剥皮を行った 画像2.3

楮を刈る際、先に実施した芽かきの重要性を認識することができ、先人の知恵を身をもって感じる事ができた。

和紙のフォトパネルを作ろうワークショップ(2/11) 対象:一般参加者7人 和紙プリントのレクチャーとパネル加工を行った 画像4



左から1.2.3.4.

参加者からの声:「地元にある財産として、もっと活用したいし、周りに発信していきます」「先人の知恵、歴史が窺い知れる楽しい経験だった」「人と人との接点としての意義も大きいと思う」+

②外国人に対する和紙、織り等伝統工芸の紹介

手漉き和紙研究会(7/14-18) 対象:一般参加者3人 和紙の原料処理から紙漉き、染色までを体験学習した。新型コロナの影響下、参加人数は少なかったが、和紙への理解を深め、興味を高めていただくことができた。 画像5.6.7.8



左から5.6.7.8

参加者からの声:「全て興味のあることばかりでした。沢山のお話と実技は、一生の宝物です。知り合いや友人にもすすめたい。」

③地域住民、一般参加者に対する講演会(講演会)

講演会(ミブ リノアーティストトーク 10/9) 対象:一般参加者51人 和紙版画展の会場と出品者をオンラインで結び、批評・講演をした 画像9.10

講演会(民藝の思想と染織りやデザイン工芸のイノベーション 1/29) 対象:一般参加者32人 画像11.12



左から9.10.11.12

参加者からの声:「和紙を用いた版画について、テクニックや表現のポイントについて、作家の直接お話が聞けたので、貴重な機会だった」「民藝運動と染織の歴史や、工芸やデザインの変遷など、知らなかった事について、詳しく知る事ができ、よい勉強になった」

### (2) 和紙と染め織り／様々な素材を用いて染め織りを楽しむ、学ぶ

①地域住民、一般参加者に対するワークショップ(ワークショップ)

藍を育てる(4/1、7/1、8/5、12/9) 対象:一般参加者のべ14人 昨年採取した種から育て、種取りまでを行った 画像13.14

藍生葉染めワークショップ(<https://youtu.be/UqofFvzgSL8>)

紙布教室(4/11、5/9、6/13、7/11、8/8、9/12、11/14、12/12、1/9、2/13) 対象:一般参加者のべ37人 画像15.16.

材料となる紙漉きから、布織りまでを実施。紙布についての知識や造詣を深めることができた。



左から13.14.15.16

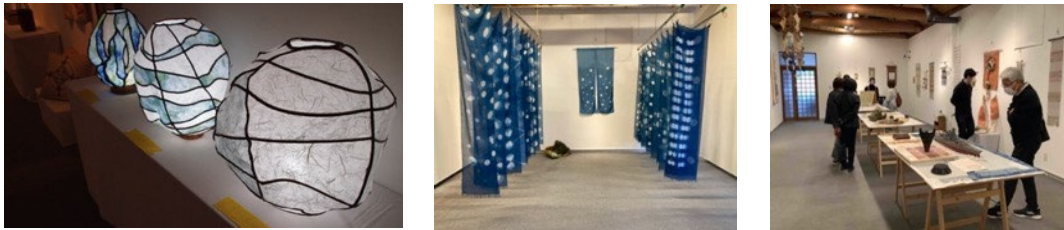
参加者からの声:「以前から藍には興味を持っていたが、育て、成育を見て、収穫できたことは、率直に楽しい経験だった」「織物について、全くの素人でしたが、糸づくりからはじめて、作品が作れるまでになりました。教室に感謝です」

②地域住民、一般参加者に対する展覧会（展覧会）

寄り合い作品展（6/12-23）対象：一般参加者のべ53人 画像17 和紙作品を中心に、27名の作家が出品した。

藍染作品展（11/12-12/8）対象：一般参加者のべ190人 ワークショップで染めたストールなどを展示した。 画像18

紙布教室展（3/13-31）対象：一般参加者のべ133人見込み 紙布教室の集大成として、作品を展示した。 画像19



左から 17. 18. 19

参加者からの声：「作家さんによって、個性があって楽しい。自分に技があったら、出品してみたいと思う展示でした。」

「阿波藍は美しいと思いました。興味深く拝見させていただきました。」「紙布ははじめて見ました。草木染めなど、やさしい色あいで癒されます。ありがとうございました」

③地域住民、一般参加者に対する講演会（講演会）

紙布教室展ギャラリートーク（3/13）対象：一般参加者27人 画像19. 20. 21. 1年間の教室活動の集大成として、作品展を開催し、教室の生い立ちから、活動の詳細、作品の詳細などの講演を行った



左から 20. 21. 22

参加者からの声：「作品の点数が多く、圧倒されました」「紙布の学びの歴史の展示は、とても興味深いものでした。先人の工夫や知恵に頭が下がる思いです」

（3）自然に生かされ、地域に生かされ

①地域住民、一般参加者に対するフィールドワーク（フィールドワーク）

フィールドワーク（高越山縦走 1/24）対象：一般参加者3人 画像23

フィールドワーク（ふるさとウォーク 3/6）対象：一般参加者17人 画 24. 25

地域の自然や史跡への理解を深め、地元の財産をあらためて再認識することができ、地域住民と観光客の文化交流の機会創出ができた。



左から 23. 24. 25

参加者からの声：「こんなに身近に、多数の史跡があることを知らずにいました。改めて地域の財産を知る良い機会となりました」

②地域住民、一般参加者に対する講演会（講演会）

講演会（高越山系の多彩な植物 10/23）対象：一般参加者31人 画像26. 27 (<https://youtu.be/fcYQnT5q0ZQ>)

講演会（冬の高越山フィールドワーク報告会2/16）対象：一般参加者16人 画像28. 29

地元高越山系に自生する和紙原料や染料原料の植物についての知識を深めることができ、先人の知恵・工夫や生活様式にふれる機会を創出することができた。



左から

26. 27. 28. 29

参加者からの声「灯台下暗しとはよく言われるが、地元のことについて、無知なことを反省した。これを機に、もっと地元のことに積極的に関わろうと思った。よいきっかけを与えていただいた。」

③地域に伝わる歴史や文化財を多言語化発信（多言語化） 画像30

阿波和紙みどころマップ(地域の史跡等と多言語化観光マップ)作成、配布 1000部

